

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 千共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
E-mail: shimpoh-c@uccj.org
発行人 竹前昇
編集主筆 竹澤知代志
印刷所 株式会社きかんし

第34期 総会期

第2回常議員会



現況を説明する三浦修関東教区議長

『新潟県中越地震』被災教会会堂等再建支援委員会報告』に関しては、山北宣久議長が、『新潟県中越地震』被災教会・被災地を覚える主日制定に関する件』も併せて審議することを提案し承認された。

小橋孝一委員長は、「一億五千万円どうしても集めなければ再建は出来ないという状況が明らかになっているので、責任を感じている。関東教区も募金していることなど、状況を説明し展

望を述べた。

小出望社会委員長は、社会委員会が検討した募金の会計処理について報告し、「教区との話し合いで、救済活動のためと目的を定め募金した。関東教区から残金の繰り入れの要望があったので、支援センターを通して繰り入れることを認めた。救済活動は終了し、支援の段階になっていることなので、区切りで会計決算報告を出し、残金は

教団に戻して欲しい」と経緯と要望を述べた。

飯塚拓也委員は、見附教会敷地の液状化の状況を説明、移転の可能性を検討する必要があることを指摘し、「土地の売買の資金手当は緊急を要する場合がある。そこで社会委員会に繰り入れを要請した」と経緯と今後の見通しを述べた。

委員会報告は、承認された。

『新潟県中越地震』被災教会・被災地を覚える主日制定に関する件』については、一主日ではなく、月間にすべきだという意見が多数述べられた。根拠として、『覚える日』だと礼拝献金を献げるという意味に取るが、それは献金の主旨とは違う。月間の方がコンサートを開くという工夫し募金できる」ということが上げられた。また、「10月には他の募金が重なる、募金は一主日に限らない」等の意見が述べられた。

佐々木美知夫常議員から、主日ではなく月間を制定する、という主旨の修正

案が提案されたが、少数否決された。しかし、修正案も含めて、『新潟県中越地震』を覚えるという原案の主旨には反対する意見はなく、採決の結果、原案は可決された。

議案原案は次の通り。

第34総会期において被災日(10月23日)に近い主日(05年10月23日、06年10月22日)を『新潟県中越地震』被災教会・被災地を覚える主日とする。

この主日にとりまう計画は『新潟県中越地震』被災教会会堂等再建支援委員会に一任する。

「新潟県中越地震」覚える主日制定

教会・被災地を覚える主日制定に関する件』については、一主日ではなく、月間にすべきだという意見が多数述べられた。根拠として、『覚える日』だと礼拝献金を献げるという意味に取るが、それは献金の主旨とは違う。月間の方がコンサートを開くという工夫し募金できる」ということが上げられた。また、「10月には他の募金が重なる、募金は一主日に限らない」等の意見が述べられた。

案が提案されたが、少数否決された。しかし、修正案も含めて、『新潟県中越地震』を覚えるという原案の主旨には反対する意見はなく、採決の結果、原案は可決された。

第34総会期第二回常議員会は、七月二〜二日、三〇人常議員が出席して開催された。

冒頭、議事日程を巡り議論があった。『濱田辰雄教師と阿部洋治教師の正教師登録の件』について、西澤宏常議員より、「これを議案としたのは、いかにも唐突であり、教師委員会報告等との兼ね合いで疑念を持つ」という反対意見が述べられ

た。これに対し、山北宣久議長は、「形式が整い、時間的に間に合えば常議員提出議案は議題として取り上げている」と答えたが、後宮敬爾常議員は、「議事三五を排除する」という主旨の議事日程修正案を提案した。採決の結果、修正案は少数否決され、原案は賛成多数で可決された。

但し、この議案は他議案の審議が白熱し、全体に時間がかかりすぎた。総幹事報告を巡っては、過去教団の常議員会と同様に多くの項目について沢山の質問・意見が述べられた。事務局会計と出版局会計との関係について、不正な処理ではないかと疑義を唱える意見に対して、竹前昇

総幹事は、「諸事情があり、変則的な処理をしておなければならなかったが、不正ではない。二〜三年で正常な会計処理が可能になる。出版局も当然正しいと考え、てこのような処理をしてきた」と答えた。

また、個人情報掲載されている教団年鑑を市販していることについての見解を問う発言に対して、愛澤豊重総務幹事は「結論的に

度発行するために編集委員を選んでいる。その後については議論を見守りたい」と述べた。

会計監査からの要望書についても意見が述べられたのに対して、竹前総幹事は、「大変に重要なことが簡潔に述べられていると評価している。個々、議案で取り上げる」と答え、また、佐々木美知夫常議員は、会計監査が指摘するような問題

は、竹前総幹事就任前に起こったことであり、今起こったことではない。現在はその事実が少しづつ明らかになり、対応策が取られている」と見解を述べた。

その他『地震・教団』の在庫処理について、幹事の退職金について、兵庫教区センターの運営上の問題について質疑があった後、総幹事報告が採決され、承認された。

『新潟県中越地震』被災教会・被災地を覚える主日制定に関する件』については、一主日ではなく、月間にすべきだという意見が多数述べられた。根拠として、『覚える日』だと礼拝献金を献げるという意味に取るが、それは献金の主旨とは違う。月間の方がコンサートを開くという工夫し募金できる」ということが上げられた。また、「10月には他の募金が重なる、募金は一主日に限らない」等の意見が述べられた。

案が提案されたが、少数否決された。しかし、修正案も含めて、『新潟県中越地震』を覚えるという原案の主旨には反対する意見はなく、採決の結果、原案は可決された。

多様な課題が盛り込まれる総幹事報告

総幹事は、「諸事情があり、変則的な処理をしておなければならなかったが、不正ではない。二〜三年で正常な会計処理が可能になる。出版局も当然正しいと考え、てこのような処理をしてきた」と答えた。

また、個人情報掲載されている教団年鑑を市販していることについての見解を問う発言に対して、愛澤豊重総務幹事は「結論的に



初日冒頭の総幹事報告で早くも議論白熱

重要案件に白熱した議論

セクシユアル・ハラスメント事件を巡る教師委員会の対応、教憲第九条の改正について、年金制度の改正案、更に新潟県中越地震、今常議員会では耳目を集める重要案件が重なった。一方で、「合同のとなえなおし」を初めとする懸案事項は、容易に解決の道が得られる問題ではなく、事柄によっては糸口が見えない状態が続いている。教団存亡の危機という声も聞く。常議員会の働きはますます重なり、教団に連なる信徒・教職の祈りがここに集められることが期待される。

荒野の

お知らせ
『教団新報』今号を
四五八四・八五合併号
とし、四五八六号は九
月十日発行とします。
総幹事 竹前昇

▼牧師の家系に生まれ、牧師を職業に選んだ男は、神の存在を信じ

たことは一度もない。しかし、善良で仕事熱心で、貧しい子供達への同情心に溢れている。周囲からは、優れた無欲な牧会者と評価されている。彼が聖書の記述を信じていないことを、誰も知らない。▼彼はクリスマス説教の原稿を書けずにもがく。「もともと彼は神を信じていないのだから、これは信仰の危機ではなく心の危機であり、真夜中のミサの言葉が浮かばないのは、ただ単に思いつかないだけなのだ。ジル・マゴーン『牧師館の死』、創元文庫」。▼どんなに善良かつ優秀であっても、学問を修められても、説教は出来ない。もしその人に信仰がなければ、確信犯的な詐欺師でもない限りは、魂の矛盾に苦しみ、自分の不信を誰かの前に告白したくなるだろう。小説の牧師は自分の家庭が非常事態に遭遇した時、その心が破綻し、崩壊していく。▼教会の営みを、神の言とこれへの信仰以外のもので補うことは出来ない。

教師委員会戒規適用で議論

委員会報告、戒告の意義を巡り賛否

七月二日、常議員会は教師委員会から報告を受けた。

軽込昇教師委員長による四件の報告の内「教師の戒規に関する事項」に質疑が集中した。

六月一六日に執行された栗津安和教師への『戒告』について、「軽すぎるのではないか」、「係争中の案件だからと教師委員会の判断が保留されたのはなぜか」、「加害教師との面接はあったが、被害者との面接はあったのか」等の質問が出された。

これに対し、軽込委員長から、「セクシユアル・ハラスメントはあってはならないこと」とした上で、「当該裁判が民事訴訟であったこと」、「係争中の案件に対する判断を下すのは、双方への負担ないし干渉になると判断した」、「被害者と接触をとるよう努めたが、当人の健康上の理由により適わず、父親と面接を行った」との答弁が

なされた。

山北宣久議長は「戒規を施行細則の不十分さについて述べ、それでも規則の中で戒規を執行せざるを得なかった事情が説明され、常議員会が今回の件を重く受け止めなければならぬ」との意見を述べ、高橋潤常議員は、元教師委員長の立場から「戒規とは神の御前での悔い改めを目指すもの。戒告によって、教師の眞副議長のもとに採決がなされ、議場は報告を承認しとを尊重したい」と意見を述べた。

軽込委員長は現行の戒規施行細則の不十分さについて述べ、それでも規則の中で戒規を執行せざるを得なかった事情が説明され、常議員会が今回の件を重く受け止めなければならぬとの要望があった。

山北議長と交代した小林眞副議長のもとに採決がなされ、議場は報告を承認した。

(辻順子報)

協議会開催要望の議員提案否決

土井しのお常議員より「セクシユアル・ハラスメント裁判に現れた教会内のセクシユアル・ハラスメントに対して、真摯に受け止める、具体的に速やかな対応をする件」が提案された。

協議会は次のとおりである。①教団議長による責任ある見解を公表し、教団内諸教会・伝道所に表明する。②常議員会でセクシユアル・ハラスメントに関する学

びのための協議会をおこなう。①については、既に教師委員会による「戒告」の戒規執行を受けて、議長談話が「教団新報」(二〇〇五年七月九日、第四五八・号)に掲載された。また②については教師委員会作成のセクシユアル・ハラスメント防止ガイドラインが検討されている。しかし提案者として、戒規適用に関し、



戒規執行について説明する軽込昇教師委員長

戒告を受けた教師の悔い改めを問い、また被害者に対する謝罪、加害者や教会の回復に向けての教団の対応と方向性を求めるというものである。

これらに対し最初に山北宣久議長は、議長談話で申し訳ない述べたが、改めて遺憾の意を表した。

また戒規としての「戒告」は、大変重大な処置であるとの認識が語られた。さらに教団のこれからの対応策として、総幹事報告で触れられているように、教団として相談・苦情窓口の設

置及び処理制度の作成を進めたいとの具体的な方向性が示された。その他、議案に係して議論がなされ「教団が人権に関する共通認識を持つことが必要である」、「今回、教師委員会が戒規執行に踏み切ったことを評価する」、「今後もこの件に関して常議員会が責任的に関わり、九州教区とのコミュニケーションを続けて欲しい」など活発な意見が出された。議案の採決が行われ否決となった。

(松本のぞみ報)

年金制度見直し再検討案提示

年金に関連して年金局決算報告「隠退教師を支える運動」報告、年金局理事会報告が行われた。年金局の四年度決算報告では、謝礼金勘定一〇九七万円、退職年金勘定四億九九六二万円の収支決算が報告された。

〇四年度「隠退教師を支える運動」には、年度計画額を越えて六七五二万円の献金が寄せられ、年金局に対し五二〇万円の繰出を行

った。作業部会、常任理

計画どおり執行した。理事会報告では、第34回教団総会での「教団年金危機打開案」否決を受けて、年金制度見直しを再検討してきたことが報告された。

理事は、年金改革の選択肢として「現行制度内での改革」を主として検討してきたが、合わせて「現行制度枠外の抜本的改革」、「解散」についても検討を行った。作業部会、常任理

事会の検討を経て、六月に開催された全体理事会には、以下を主な内容とする案が提案された。

①退職年金満額給付の開始年齢を六五才から七二才に引き上げる。②第34回教団総会に提案した献金目標値を二分の一とする。いずれも〇七年度から実施。年金局は、年間一億五千万円をこ十年以上に亘って捻出してゆく必要を訴えてき

たが、給付年齢引き上げにより年六千万円の給付節減が十数年後に可能となる。支給年齢を過ぎても掛金を掛け続けるという善意でこれまで支えられてきた部分が制度的に担保されることは大きいことを強調した。

これに対し、年金局案を支持する意見が出された一方、教団年金を最低生活保障の制度へと抜本改革すべきとの意見も出された。七二才という年限については、年齢算出基準、規則との整合性、年限以前の隠退

会計監査の使命に抜本的取組み

有澤福年会計監査委員長は、「予算決算委員会報告の件」の承認に先立ち、詳細な「教団会計監査実施要項中間報告」を行い、第34総会で大幅に改正されたことで「会計監査の役割がより重要さを増した」ことを強調した。

基本方針では、いずれ外部監査を受ける法人になることを目標として、当面は組織の確立を計ることを主

な仕事とすること、また、総会で新たに加えられた『業務監査』を視野に入れ、教団の機構・組織・制度そのものを監査する使命について述べ、長期的で困難な課題に取り組む覚悟を披瀝し、同時に理解・協力を呼びかけた。

具体的な取り組みとしては、以下の項目を上げた。A. 教団三局の合同監査を進めるために、三局の合算貸借対照表を作成する試み

者への配慮等、検討を要望する意見が出された。また決算に関し資産運用益についての質問には、教団年金は最もリスクの低い運用が行われていることを説明。この厳しい条件で四千万円近くの運用益があることは評価すべきとした。

決算「支える運動」、理事会報告は承認され、新しい危機打開策案は教区での検討が開始される。教団総会再提案に向け理事会の検討もなお継続される。

(渡邊義彦報)

をした。B. 「教団内の各センター会計決算の掌握と統合を進めるために」、その問題点となっていることを指摘し、予算決算委員会の答申に依れば「各センターは独立法人への移行が望ましい」、そのためにも監査協力から始めなければならない。C. 教会・伝道所の設立時に宗教法人格を得るまでの経過処置として教団名義で購入された資産が未計上となっているので、教団

特別財産の掌握と評価額の確認をしてはどうかと問題提起したい。D. 全教区会計の統一化推進の検討を始める。また、教区活動連帯金について、約四〇〇万円の資金が動いているのに、教団総会の報告書で表示されていない点について検討する必要があると指摘した。

報告を受け、常議員からは「教団は一人であり、全て議長長の印鑑で動いている。」「予算決算委員会報告の件では、教団運営資金について質問・意見が集まった。飯塚拓也委員長は、資産評価についての質問に答え、運営資金の中味を説明し、将来的に運営基金の項目を作った方が良かった。ただ、教団運営資金の項目をなくする方針もある」と述べた。

その他、幹事の退職引当金についての質問があり、また、未収金の整理に関連して消費収支計算書の作成をすべきだという提案などさまざま意見・要望が述べられた。

「報告」は、監査も含めて採決により承認された。

だが、今後第九条の変更への取り組みは困難であるとの判断が示された。

この報告に対して、そもそも検討作業委員会に委ねられた課題が何であったか、中間報告をどう受けとめるかなど、歴史を遡って考える議論や、委員会の性格や課題、今後の方向を巡る議論があった。

(藤盛勇紀報)



年金制度存続を訴える小林貞夫局長

教憲第九条検討作業委員会

二日目の最後に、教憲第九条を検討する件が扱われ、中間報告のかたちで検討作業委員会報告がなされた。藤掛順一委員会書記は、二種教職制の問題は教団における教会論、教師論を確立していくという課題と密接に関わっているという認

識のもと、基本的な問題と具体的な問題に整理して報告した。具体的な問題としては、神学校間における教育内容の相違、Cコース受験者の学びの指針、合否判定の基準の問題、また教師補を設けることを想定した場合の問題などがあげられ

牧師館に住んで

牧師のパートナーとなつてから
今年はずうど四〇年、六教会六
つの牧師館に住ませていただいた
ことになります。

教会と牧師館が離れている所もありましたが、礼拝堂や集会室の二階に住んでいた時は、元気があり余っている三児の子育てに、はらはらすることもありました。

一歳半の息子が二階から転落したこともありましたが（幸い右腕の骨折だけですみました）。

木犀の香り漂う牧師館
この秋までと古木見上ぐる

（信徒の友）短歌入選歌
九年間住み慣れた前任教会を去
る前の秋に牧師館の庭に佇んで詠

(鴻巣教会キリスト教教育主事)

牧師が教会から招いていただく

とき、私もキリスト教教育主事として招聘していただいて、現在は鴻巣教会キリ

スト教教育主事としてこの働きの場を与えられていることを感謝しています。

前任教会では、教会でのキリスト教教育の働きのほかに、学区や分区の教育委員会を十年近く兼任していました。

方区や教区のキャン
フに欠かさず参加し
て、若い人たちのの



んだ短歌です。

今住んでいる六つ目の牧師館は一階が幼稚園、二階に礼拝堂と牧師館が向き合う位置にあり、玄関は一階に一つです。教会、幼稚園、牧師館の三つが一つの家族であることを、日々実感しながら楽しく暮らしています。

キリスト教教育主事として

私は一九六三年に日本基督教団からキリスト教教育主事として認定されました。以来、キリスト教教育主事として、主から召されたことを覚え、そこに使命があることを思い、牧師のパートナーとしての日々を歩んで参りました。

交わりの時を楽しんできました。
現在は教会の教育的プログラム（教会学校、子どもとおとなの合同礼拝）に係わっていくと共に、幼稚園の合同礼拝や保護者の集い（聖書と賛美の会、PTA活動）にも参与させてもらっています。
地区内の教会から親子礼拝に招かれてメッセージをお伝えし、懇談する時も予定されています。
今年の一月から、近くの准看護学校で「患者の心理」の講座を持つ機会を与えられました。看護師を目指している若い人たちと共に病いや死と向きあっている患者さんにとって寄り添っていけるかを共に考えています。

共に歩む幸い

二〇〇五年八月二三〜二五日、第一五回全国牧師夫人の会が松山で開かれます。二年に一度開かれるこの会に、ときどき私一人で参加していましたが、今回はパートナーと二人で参加する予定です。この会のテーマ「共に歩む幸いー心健やかにー」のように、主が備え給うゴールを目指して、支え合いつつ、地上の歩みを続けていきたくと心から願っています。

推進委員会を開催

去る六月一日、一六日、教団会議室にて標記の会を開催した。出席者は各教区と東京各支区の推進委員及び事務担当の二八名。それに教団総幹事竹前昇氏、年金局理事長小林貞夫氏、同業務室長青地恵氏の三名にも席席を得て、合計三二名であった。

開會礼拝で、竹前総幹事より「霊の賜物」(第一コリント・二章一〜二節)と題する説教があつた。

金局理事長の挨拶に続いて、二〇〇四年度の事業報告、決算報告などを承認したあと、年金局業務室長より「教団年金の現状」について詳しい説明を聞き、改めてその厳しさを認識した。

その後各推進委員から活動報告を聞いた。例えば教区内の諸教会を訪問して、丁寧に説明して推進活動に励んでいる委員、或いは教区や支区、地区などのあらゆる集会に出かけて行ってアピールをしている委員。ある教区委員からは「話を聞きたいから来て欲しい」との要請にに応じて、その教会、地区の集会に出席して説明をしたなど、それぞれ

参考になる報告があつた。

しかし、昨年の教団総会で「教団年金危機打開に貢献する件」が否決されて以降、「隠退教師を支える運動」にとっても、新しい課題を与えられていることも報告された。目標である「参加教会七〇％」を目指してはいるが、つつし推進に励むこと、また運動の裾野を少しでも広げることと推進運動の継続の大切さなども話し合った後、閉会祈禱を以って終了した。

(多田信一報)

★宣教師公募

任地ノドイツ・ケルン・ハ
 ン日本語教会／任期〓二〓〓
 〓六年七月から五年間ノ延
 長なしノ条件ノ教團正教探
 ・ケルン市在住ノ独語力要
 他ノ締め切り〓二月末
 ★EMSボランティア公賞
 任地ノレバノンノベツカ
 ジョアン・ルドウィグ・シ
 ュネラー・スクールノ任期
 〓六ヶ月ノ条件ノ一八歳
 ら二七歳ノ締め切りノ九月
 末日ノ問合せノ世界宣教
 力委員会(☎03132022
 210544)

梅原絵里子さん

1976 年京都生まれ。三ヶ日調剤
センター薬局長、遠州栄光教会員

「教会に行ったのは、野心から

「野心」から「御心」へ

でした」と梅原さんは笑いながら語る。小さい頃からの夢だった薬剤師になって梅原さんが最初に訪れたのは遠州栄光教会、彼女は「教会の人たちに自分の勤めている薬局を宣伝し、処方箋調剤の枚数を増やして仕事に成功したい!」と思っていたそつである。ところが、教会では彼女自身の思いとは別に、皆から暖かく迎えられる、礼拝をはじめ諸集会、諸活動へと参加するようにになり、多くの出会いと交わりを経験した。そしてここに本来の自分の居場所がある、懐かしい場所に帰って来たと思うようになった。いっただうな。

「野心」から「御心」へ

なければならなくなりました。転勤後、梅原さんは大量の処方箋を処理する仕事、度々繰り返される転勤と人間関係の変化に疲れを覚えていた。そんな時、転勤先の近くの教会を訪れ、またそこでも暖かく迎ええられる経験をした。そして、教会にはいつも自分の居場所が用意されている、どこに行っても、教会にイエス様が自分の居場所を用意していただることに気がされた。やがてその思いは、自分の生涯を救い主イエス様に委ねていこう」との決心へと導かれていった。

った遠州栄光教会の教会員から新しい葉局の仕事を紹介されたのだ。梅原さんはもう一度浜松に戻り、遠州栄光教会で洗礼を受けた。新しい職場では患者の者人たちと向き合って、時間をかけて話し合い、人格的関わりをもって仕事をする場が与えられた。そこに思いを遥かに超えて彼女の理想としていた職場が用意されていた。梅原さんの「野心」はイエス・キリストと出会い、「御心」の内に変えられた。「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を

しかし数ヵ月後、会社から転勤命令があり、その教会を離れ

その決心と相前後して不思議な出来事が起こった。最初に通

益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。」

平和聖日メッセーじ

平和聖日はこの年、敗戦六〇周年ということもあってさらに重みと深さを味わえます。

ただ時間的節目ということだけではありません。憲法九条の改悪を軸とした平和憲法を破棄せんとする勢いがあり、教育基本法の改悪や日

平和

平和は私たちが守るべきもの
に思われがちですが、実は平和が私
たちを守っていることに思いを致
さねばなりません。

「あらゆる人知を超える神の平

平日メッセージ

動というスタイルだけを意味するものではありません。

一人一人が神の平和によって心と考えを守られて、平和をつくり出すわざへと召されていくのです。

従って礼拝を捧げること、伝道

の丸、君が代の強制による自由の侵害、さらには首相の靖国神社参拝や過去の歴史理解の低さによる中国・韓国から投げかけられてくる不信任等々、平和に生きること、を妨げる問題性の中にあつて平和聖日を憶える意味は大きいので

相が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしよう」。(フィリピ四章七節)

へと遭わされていくことは、平和運動に携わっていくことになる。とに自覚を旺盛にして行きましよう。

二〇〇五年八月七日
日本基督教団総会議長
山北宣彦